

第20期北九州市青少年問題協議会 第1回専門委員会 議事録

日 時 平成23年5月13日(金)

10:30～12:00

場 所 北九州市役所3階 大集会室

出席者

専門委員 大坪 靖直委員長 他8名

本 市 柴田子ども家庭局子育て支援・健全育成担当部長 他14名

会議次第

挨拶 青少年問題協議会 事務局長 (子ども家庭局 子育て支援・健全育成担当部長)

専門委員ご紹介

議事

- 1 専門委員会委員長及び副委員長の選出
- 2 「若者」の現状
 - ・「様々な問題を抱える若者の現状について」
 - ・「若者に係る雇用情勢等について」
 - ・「少年非行の概要について」
 - ・「審議事項の体系について」
- 3 今後の審議日程等について
- 4 その他

審議の概要

- 1 専門委員会委員長及び副委員長の選出
大坪委員が委員長、大島委員が副委員長に選出された。
- 2 「若者」の現状
資料について事務局から説明を行い、それに対する質問や感想、意見交換を行った。

主な発言は次のとおり

<若者が抱える様々な問題等について>

- ・全てをひっくるめてニート・引きこもりということではなく、段階ごとに支援の仕方が異なることを踏まえ、それぞれの道筋を作っていけるような支援方法を考えてはどうか。
- ・一般的な予防対策と若者が抱えていることについての具体的相談、どうやって支援につなぐのか、ライフに応じた形の支援策を講じることが大事。
- ・幅広い年齢の方が相談に来ており、それぞれの年齢に応じた支援が必要。自立度も異なり、求められていることが異なる。
- ・相談に行ける人はうまくいっている。相談者は幅広いため、その多様性に対応できるような支援方法を改善するとよい。対人関係に障害を持つ方とどのように接していくか

も問題。

- ・アンケートは回答できる人にすぎない。家の基盤がなく引きこもる場所がない人も念頭に、全体的に支援を検討することが必要。
- ・「自立」について、市としてどう考えるのか整理が必要。経済的にも自立するということであれば、若者の自立向けのファンドなども考えられる。

< 若者の居場所づくりについて >

- ・新たに作らなくとも、すでに今ある場所に機能を入れる方法もある。

< 若者の就職について >

- ・雇用の場を考えることが必要。「親和群」を活かしながら、「引きこもり群」への支援をすることも必要。また、例えば、指定管理者の要件に組み込むことなども考えられる。
- ・働くことに関して、「目的意識、責任感等の不足」「社会人としての基礎的資質・能力の不足」とあるが大学で行うには遅い。人と協力して何かを行うプログラムを実施するなど、就職支援だけではなく、進路・生き方も含めたキャリア教育が必要。

< 家庭環境等について >

- ・幼少期からの家庭環境や地域との関わりが重要。(幼少期からの家庭環境等、育った環境の調査ができればありがたい)
- ・学校では、問題行動を起こす生徒がいると、担任はその生徒に莫大な労力を費やし、その他の生徒に対して手が回らなくなるという反省がある。カウンセラー・担任・養護教員・親との連携が必要。
- ・非行少年がどのような環境の中で育ったか、把握できれば対処方法の検討につながるのではないかと。
- ・問題を抱えて相談に来る若者に中卒者が多いのは、「発達障害」が関係していることも考えられる。生育期の遊び・自然体験や家庭の養育環境を重視していく必要がある。

3 今後の審議日程等について

第2回専門委員会について、6月28日(火)を第一候補として調整することとなった。その後、第2回全体委員会にて、専門委員会での審議結果を報告予定。